

水稻の生育状況と今後の管理対策（第6号）

令和7年7月18日
新潟県農林水産部

〔7月17日現在の県内全域の生育概況〕

- コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」状況です。
- 新之助では指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」状況です。
- 全県的に、急激に葉色低下が進んでいます。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 7月17日発表の北陸地方1か月予報（7月19日から8月18日）では、平均気温は高く、降水量は平年並か少ない、日照時間は平年並の見込みです。
- 高温気象により、コシヒカリの出穂期は平年より早まる見込みです。
- 7月18日頃に梅雨明けしたとみられるとの発表がありました。今後も高温が見込まれ、さらに葉色低下が進む懸念があります。

〔今後の管理対策のポイント〕

- 出穂期までに栄養状態を回復させ、後期栄養を確保するため、速やかに必要量の穂肥^{*1}を施用しましょう。
- 根が養水分を吸収できる状態を維持するため、飽水管理^{*2}を継続しましょう。
- 水管理は、用水が地域全体に行き渡るようこまめな水回りを行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに水口を止めましょう。
- 斑点米カメムシ類の注意報が発表されています。畦畔・農道等や水田内の雑草管理及び適期の薬剤防除等の適切な対策を実施しましょう。

コシヒカリ

- 分施肥系では、2回目の穂肥（出穂期10日前頃）を出穂後の栄養を維持するため確実に施用してください。葉色に応じて増量しましょう。茎の伸びには影響しません。
- 2回目の穂肥施用後も葉色が指標値を下回る場合には、必ず追加穂肥（3回目穂肥）を施用してください。
- 全量基肥施肥^{*3}体系では、葉色が淡い場合は追肥を施用しましょう。

新 之 助

- 分施肥系の1回目穂肥（出穂期21～18日前）は、適正量の穂肥を確実に施用してください。葉色が淡い場合は、早めに施用しましょう。
- ほ場内をよく観察し、いもち病の病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

早生品種

- まもなく出穂期となり、最も「水」を必要とする時期となっています。高温障害を回避するため飽水管理に努め、高品質を目指しましょう。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に行う追肥のこと

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意しましょう。
 - ・ 気温の高い時間帯に作業しない。
 - ・ 単独で作業しない。
 - ・ 休憩はこまめにする。
 - ・ 定期的に水分・塩分を補給する。
 - ・ 帽子等で直射日光をさえぎる。
 - ・ 暑さ対策用品を活用して身体を冷やす。
- 寝不足や疲労がたまると熱中症になりやすくなるので、日頃から体調管理に十分注意しましょう。

コシヒカリの生育診断と穂肥施用のタイミング

分施肥系の穂肥

1回目施肥時期

（出穂18～15日前）

幼穂形成期に生育調査をして
診断する

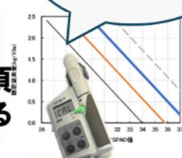


葉色が淡ければ
増肥もあり

2回目施肥時期

（出穂10日前頃）

予測出穂期の10日前頃
葉色を測定して**診断**する



葉色が淡ければ
すぐに追加

3回目施肥時期

（出穂3～6日前）

葉色を測定して**診断**する

出穂期	出穂期10日前	出穂期
出穂期10日前	出穂期10日前	出穂期
出穂期10日前	出穂期10日前	出穂期

全量基肥＋追加穂肥

分施2～3回目に 相当する時期

（出穂10～5日前頃）

予測出穂期の10日前頃に
葉色を測定して**診断**する

葉色が淡ければ
すぐに追加



- 今後の管理対策発信予定日 7月25日・31日、8月21日

〔補足資料〕

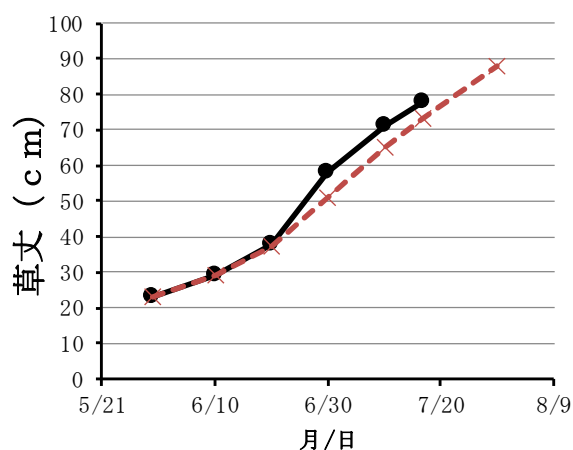
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月17日現在）

コシヒカリ

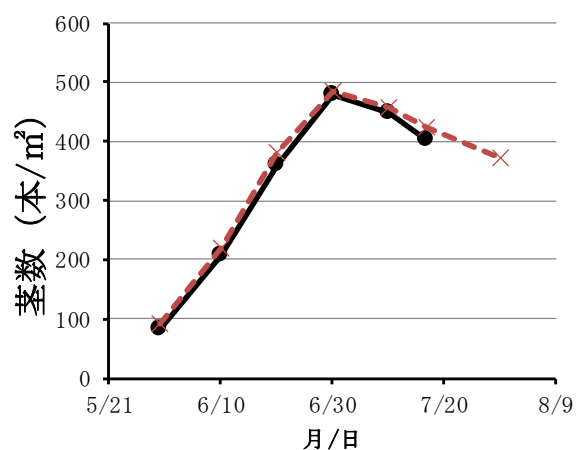
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「淡い」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	78 cm	73 cm	やや長い	107%
茎数	402 本/㎡	424 本/㎡	やや少ない	95%
葉数	12.3 葉	11.7 葉	やや早い	+0.6 葉
葉色 (SPAD 値)	30.6	33.9	淡い	-3.3

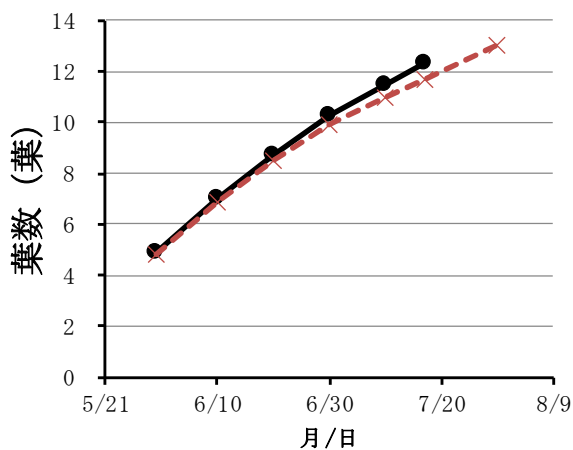
注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月12日、栽植密度17.2株/㎡）



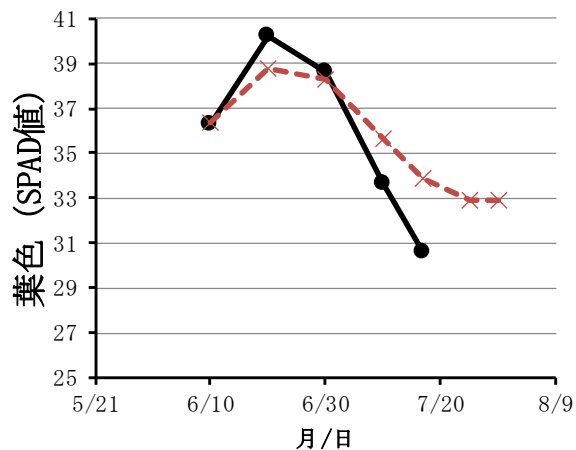
草丈の推移
(県全体)



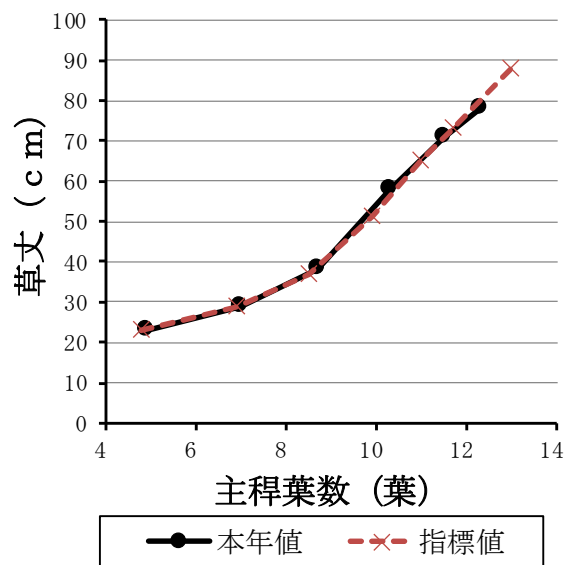
茎数の推移
(県全体)



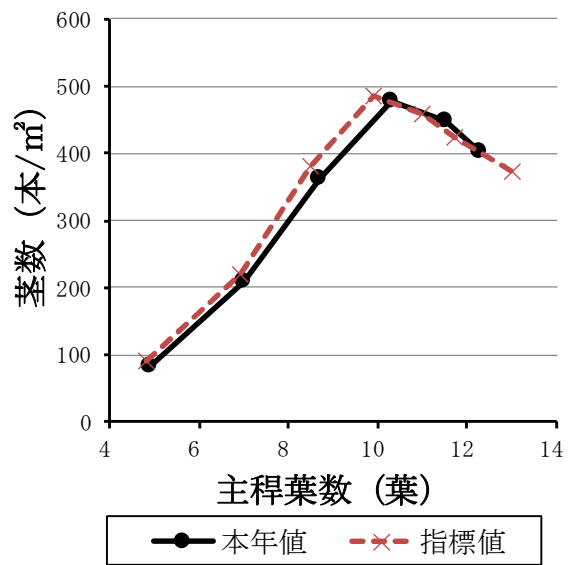
葉数の推移
(県全体)



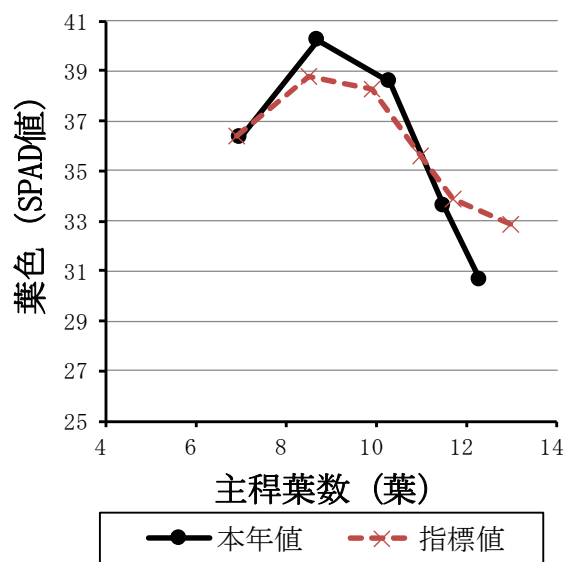
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



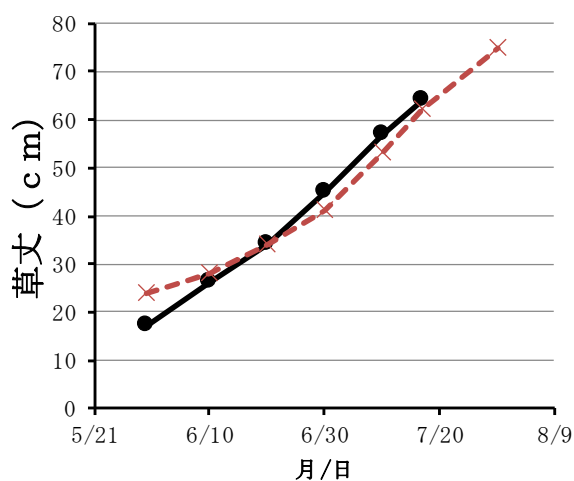
葉数と葉色
(県全体)

新 之 助

○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」、葉色は「淡い」です。

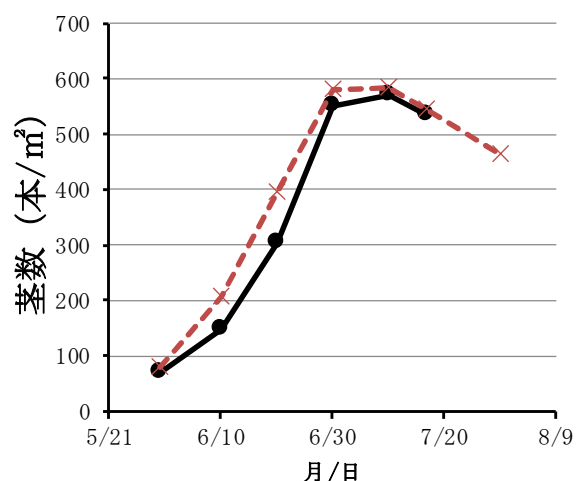
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	64 cm	62 cm	並	103%
茎数	534 本/㎡	546 本/㎡	並	98%
葉数	12.1 葉	12.0 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	32.4	34.7	淡い	-2.3

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値(田植え5月19日、栽植密度16.7株/㎡)



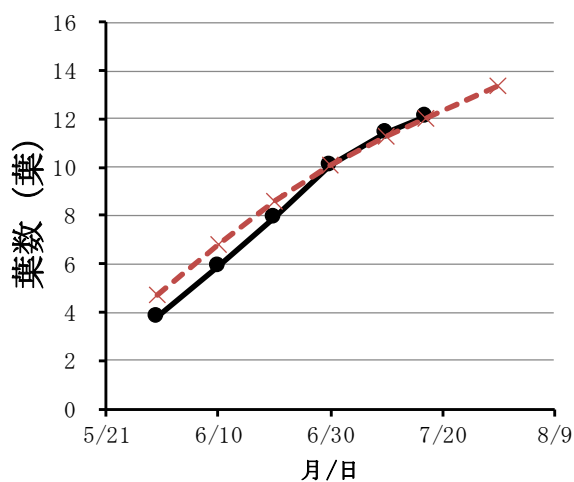
● 本年値 × 指標値

草丈の推移
(県全体)



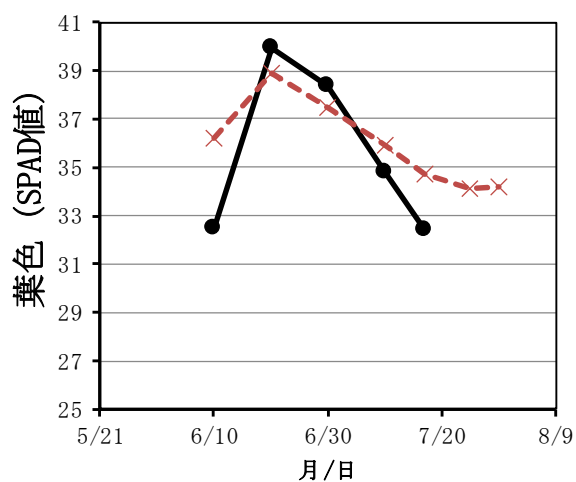
● 本年値 × 指標値

茎数の推移
(県全体)



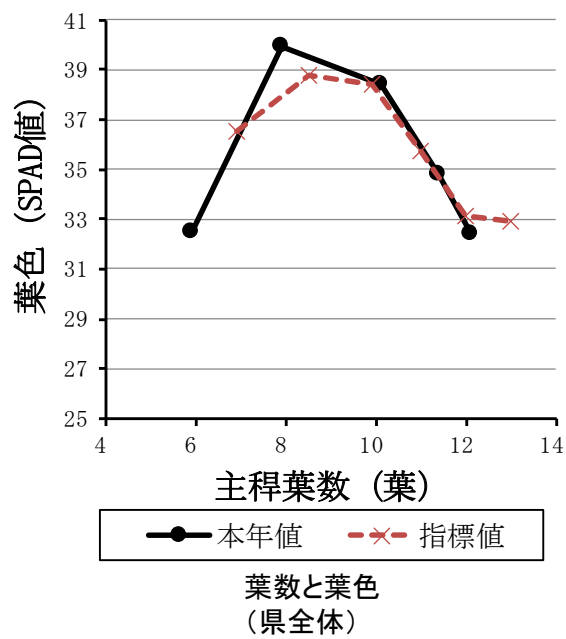
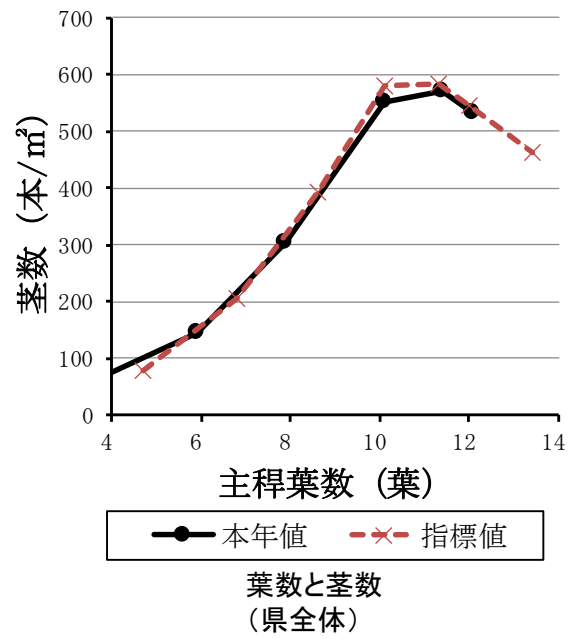
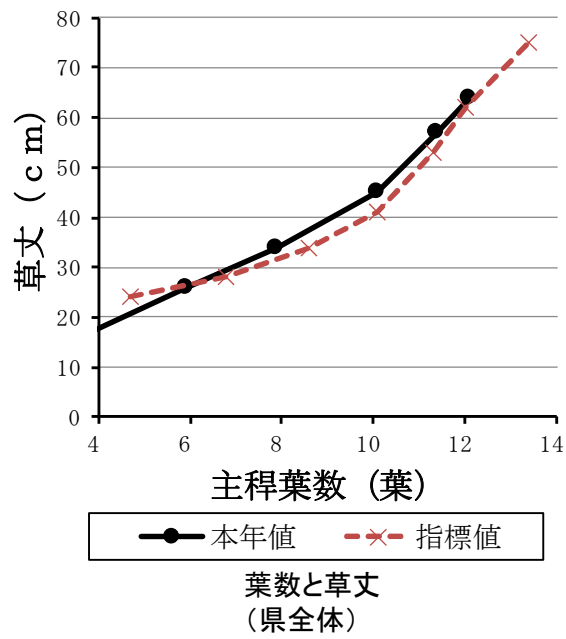
● 本年値 × 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉色の推移
(県全体)



こしいぶき (参考)

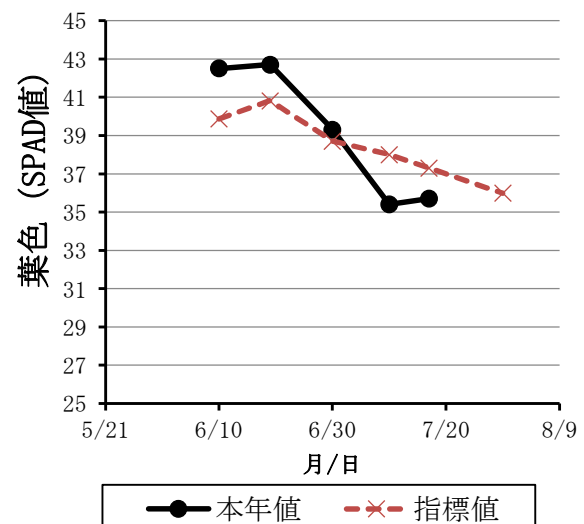
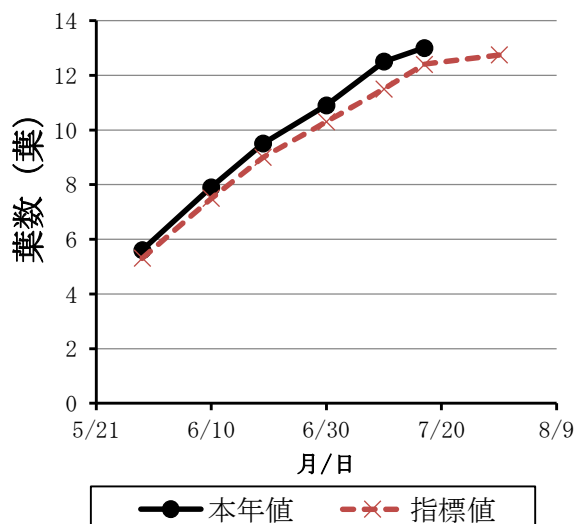
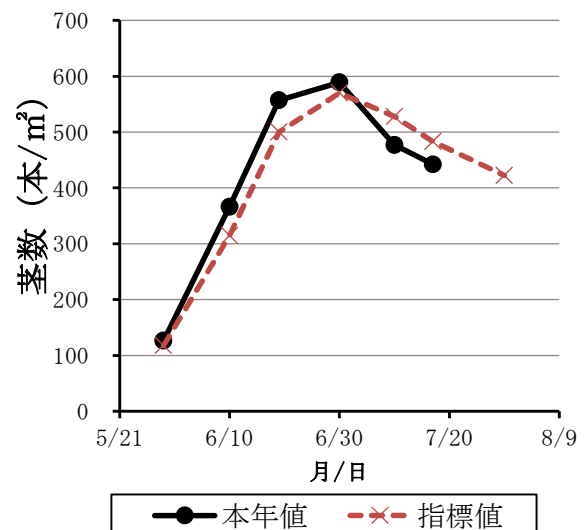
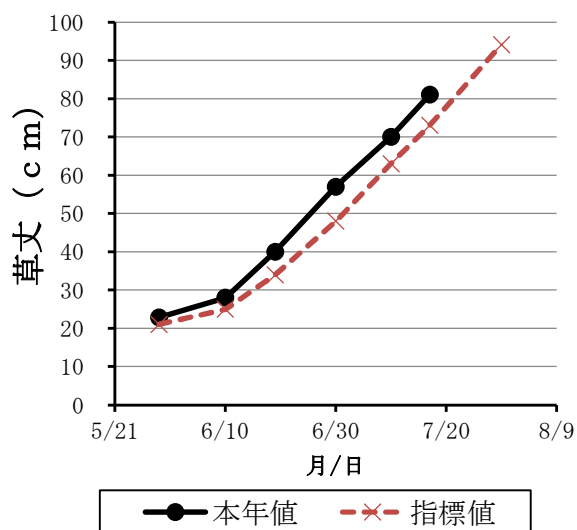
○ 指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	81 cm	73 cm	長い	111%
茎数	442 本/m ²	483 本/m ²	やや少ない	92%
葉数	13.0 葉	12.4 葉	やや早い	+0.6 葉
葉色 (SPAD 値)	35.7	37.3	やや淡い	-1.6

注1) 化学肥料栽培。田植え5月9日、栽植密度18.7株/m²

注2) 基肥窒素成分量3.0kg/10a、穂肥窒素成分量3.0kg/10a（1.5kg×2回分施：1回目7月4日、2回目7月11日）

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



2 出穂期の目標 SPAD 値に誘導するためのコシヒカリの 2 回目穂肥診断

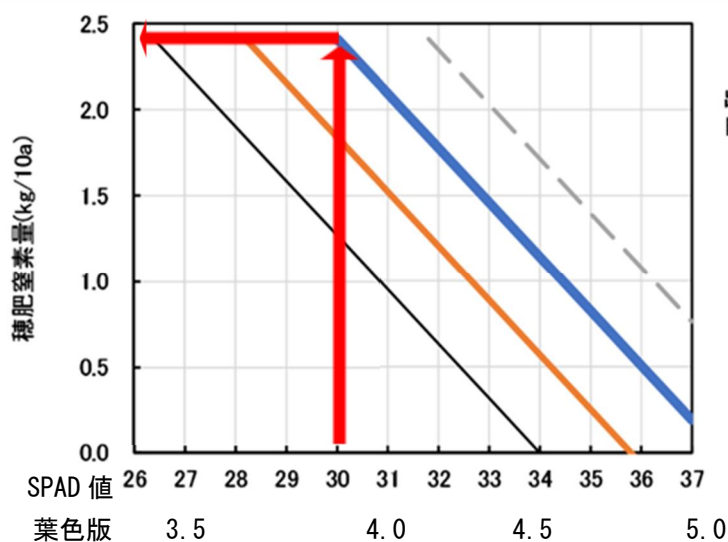
登熟期間が高温になっても後期栄養を維持するため、分施肥体系 2 回目穂肥も穂肥診断を行います。穂肥診断により診断量が計画量よりも多く必要となったら、増肥しましょう。診断量が計画量よりも少ない場合は、計画量を施用しましょう。

2 回目穂肥診断方法

1 2 回目

穂肥時期（予想出穂期 10 日前）に葉色（SPAD）を測定する。

- 図 1 より、出穂期の目標の葉色（SPAD 値）となるように、2 回目穂肥時期の葉色（SPAD 値、葉色値）から穂肥窒素量を読み取る。
- 診断結果 > 計画量 → 診断結果量を施用
診断結果 < 計画量 → 計画量を施用



高温予想だけど、肥料は何キロくれたらいい？

今年の夏は暑くなりそうだから目標 SPAD 値は最低でも 34 はほしいな

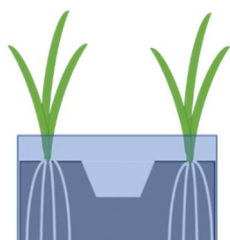
例
出穂期の目標 SPAD 値 : 34
2 回目の穂肥時の SPAD 値 : 30
穂肥窒素 : 約 2.5 kg/10a

図 1 出穂期の目標 SPAD 値に対応した 2 回目穂肥における SPAD 値と穂肥窒素量の関係

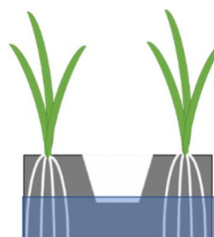
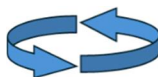
注 重回帰式 $Y = 1.749 \times X1 + 0.555 \times X2 + 13.134$ ($R^2 = 0.669$)、Y: 出穂期葉色 (SPAD 値)、X1: 2 回目穂肥窒素量 (kg/10a)、X2: 2 回目穂肥施用時の葉色 (SPAD 値)。

飽水管理のイメージ

浅く湛水する



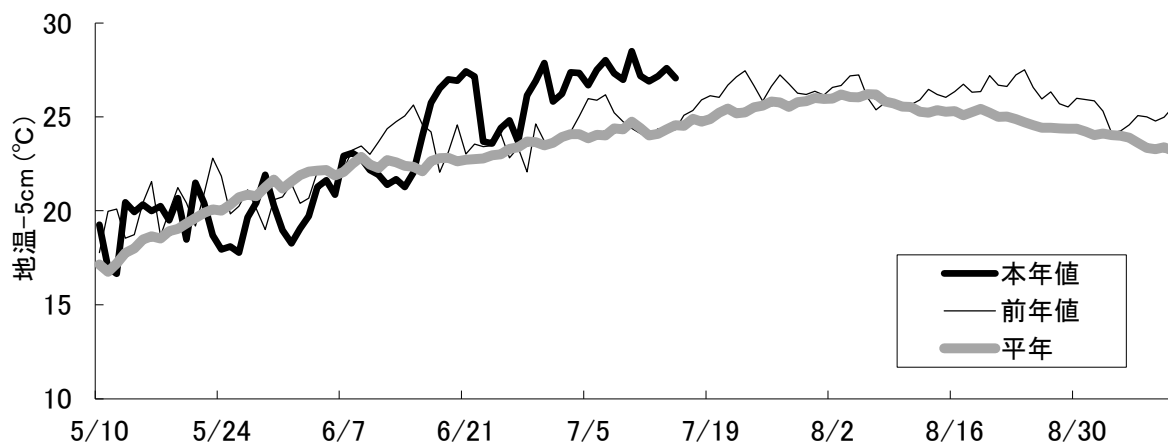
給水と自然減を繰り返す



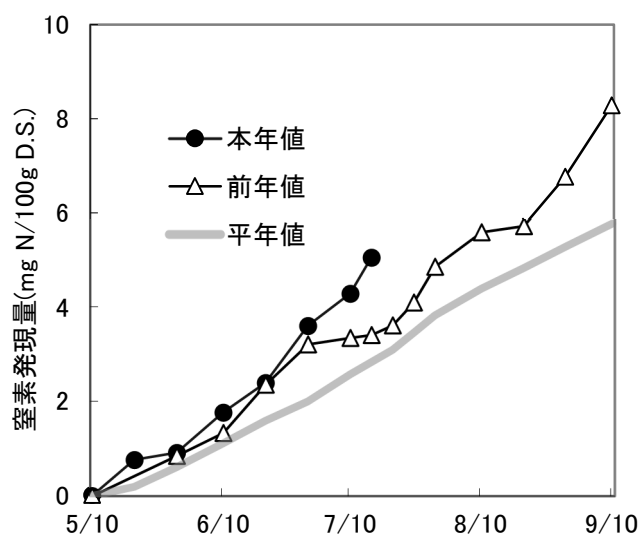
足跡や溝の底に水が残る程度まで水位が減少してからかん水する

3 ちりょく 地力窒素の発現状況

- 7/9～7/15 の期間の日平均地温は平年差+2.9℃で平年より高く推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年より多く推移しています。6/11～7/10 の期間の地力窒素発現量は平年より 1.1 mg多く発現していました。



水田地温（5 cm 深）の推移
（農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）



地力窒素発現量の推移(7月16日)

(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)

初期値=0、田植日：5月9日、化学肥料栽培

基肥窒素成分量：3.5 kg/10a